○ハマエンドウの学名（大橋広好・立石庸一） Hiroyoshi OHASHI & Yoichi TATEISHI: Notes on *Lathyrus japonicus* in Japan

ハマエンドウの学名には *Lathyrus japonicus* か *L. maritimus* が当てられている。近年この2つは種または亜種として区別されている。Pobedimova (in Not. Syst. Leningrad **19**: 20-39, 1959) は *L. japonicus*, *L. maritimus* と，更にケハマエンドウを *L. aleuticus* として，それぞれ別種で区別した。この見解については Ball (in Fedde, Rep. **79**: 45-46, 1968) が再検討した。彼は *L. maritimus* を *L. japonicus* の亜種として区別し，*L. aleuticus* は *L. japonicus* と同一であるとしている。命名規約上，最も早く発表された *Pisum maritimum* L. (1753) は *Lathyrus* のもとでは *L. maritimus* Bigel. という先行名があるため使用できないので，種名としては次に早い名である *L. japonicus* Willd. (1802) が用いられる。subsp. *japonicus* と subsp. *maritimus* の区別点については Fl. Europ. **2**: 38 (1968) で次のようにまとめている。subsp. *japonicus* は花序は 2—7 花，萼は有毛，花は長さ 18—25 mm，それに比べて subsp. *maritimus* では花序は 5—12 花，萼は通常無毛，花は長さ 14—20 mm である。ところが，日本でみられる多くの形では花序は (2—)3—6(—8) 花，萼は無毛，花は長さ 18—22(—25) mm であるため，日本のハマエンドウは Ball の意味する亜種のどちらとも決め難い。その後 Bässler (in Fedde, Rep. **84**: 405-414, 1973) も同じく subsp. *japonicus* と subsp. *maritimus* とを区別した。更に彼は *L. aleuticus* を subsp. *japonicus* の変種として認めている。彼によると (pp. 408 & 410)，subsp. *japonicus* では小葉は長さ (15—)20—30(—40) mm，幅 (7—)8—20(—25) mm，花序は 3—5(—8) 花，花は長さ 18—22(—25) mm，萼は無毛または有毛，豆果は幅 10—12 mm。一方，subsp. *maritimus* では小葉は長さ (25—)30—40(—50) mm，幅 (11—)15—20(—25) mm，花序は 6—10 花をつけ，花は長さ 10—16 mm，豆果は幅 7—9 mm，日本のものでは小葉は長さ (15—)20—30(—55) mm，幅 7—20(—30) mm，豆果の幅は (8—)9—12(—13) mm である。従って前記の花序あたりの花数および花の長さとを併せて調べてみると，日本のハマエンドウは Bässler の subsp. *japonicus* に当ててよいと思われる。

ケハマエンドウは茎，小葉裏面，花軸，小花柄，萼の外面が有毛の形で，日本では北海道と本州北部日本海側に分布する。朝鮮半島独津海岸（大井次三郎 242 TI）と Kansang 杆城 (Tyson 4939 TI) の2標本ではケハマエンドウと無毛形すなわちハマエンドウとが混っている。従来ハマエンドウの品種あるいは変種，または独立種として扱われてきたが，我々は単なる有毛形として品種説に賛成である。*L. japonicus* のもとでは新組み合わせが必要となる。問題となるのは従来ケハマエンドウに当てていた学名のタイプが subsp. *japonicus* に属すものかあるいは subsp. *maritimus* かという点である。タイプ標本を確かめられなかったが，Bässler (1973) はケハマエンドウを subsp.

japonicus に含め，すべての異名を引用しており，更に subsp. *maritimus* の有毛形を var. *pellitus* として区別している。我々も彼の説に従い，ケハマエンドウは subsp. *japonicus* の一形であると見做したい。

ハマエンドウには2種類の白花品がある。1つはシロバナハマエンドウで，旗弁が淡紫色，翼弁と竜骨弁が白色のものである。栃木県鬼怒川で1930年関本平八によって発見された。これは *L. japonicus* のもとでは新組み合わせが必要である。他の1つはユキイロハマエンドウで，原発表のとうりでよい。

Lathyrus japonicus Willd. subsp. **japonicus**: Bässler in Fedde, Rep. **84**: 408 (1973). **ハマエンドウ**

f. **pubescens** (Hartm.) Ohashi et Tateishi, comb. nov. **ケハマエンドウ**

Pisum maritimum L. *β. pubescens* Hartm., Handb. Scand. Fl. ed. 2, 198 (1832).

Lathyrus maritimus (L.) Bigel. var. *velutinus* Fries, Summa Veg. Scand. 46 (1846).

L. maritimus f. *pubescens* Sael in Kihlm. et Hjelt, Herb. Mus. Fenn. ed. 2, 1, 139 (1889).

L. maritimus Aleuticus Greene ex White in Bull. Torr. Bot. Club **21**: 450 (1894)—Honda, Nom. Pl. Jap. ed. emend. 129 (1957), ut var. *aleuticus* Greene—Sugimoto, Key Jap. Dicot. 278 (1965).

L. japonicus var. *aleuticus* (Greene) Fernald in Rhodora **34**: 179 (1932); **35**: 277 (1933)—Hara in Bot. Mag. Tokyo **49**: 794 (1935)—Honda, Nom. Pl. Jap. 174 (1939)—Bässler in Fedde, Rep. **84**: 409 (1973), ut *L. japonicus* subsp. *japonicus* var. *aleuticus*.

L. aleuticus (Greene) Pobedimova in Not. Syst. Herb. Inst. Bot. Komar. **19**: 27 (1959).

f. **albescens** (Makino) Ohashi et Tateishi, comb. nov. **シロバナハマエンドウ** (牧野 1931).

L. maritimus var. *albescens* Makino in Journ. Jap. Bot. **7**: 13 (1931).

L. japonicus var. *albescens* (Makino) Honda, Nom. Pl. Jap. 174 & 509 (1939).

L. maritimus f. *albescens* (Makino) Hiyama in Journ. Jap. Bot. **28**: 155 (1953)—Sugimoto, Key Jap. Dicot. 278 (1965).

f. **albiflorus** Tatewaki ex Miyabe et Tatewaki in Trans. Sapporo Nat. Hist. **14**: 185 (1936). **ユキイロハマエンドウ** (桧山 1953).

L. maritimus f. *albiflorus* (Tatew.) Hiyama in Journ. Jap. Bot. **28**: 155 (1953)—Sugimoto, Key Jap. Dicot. 278 (1965).

(東京大学理学部附属植物園)